

# 令和6年度 仙台市 英語教育改善プラン

## 目標

「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標や学習者用デジタル教科書の活用を通して、授業における、英語による言語活動の充実を進め、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する

○CAN-DOリスト形式による学習到達目標の整備状況(設定R5:85.6%⇒R6:90% 公表R5:69.5%⇒R6:80% 把握R5:76.3%⇒R6:80%)

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標の整備状況が改善  
(設定 R4:57.6%⇒R5:85.6%)  
(公表 R4:13.6%⇒R5:69.5%)  
(把握 R4:38.1%⇒R5:76.3%)
- ②児童の英語による言語活動の状況が改善  
(R4:86.4%⇒R5:94.9%)

#### 未だ改善が必要な点

- ①児童が学習者用デジタル教科書を活用した授業は、改善の余地がある。  
(R5:66.1% \*全国82.1%)
- ②小中連携の状況は、指導方法の交流やカリキュラム等の設定において改善の余地がある。  
(交流 R4:35.4%⇒R5:40.0% \*全国52.5%)  
(小中連携したカリキュラム等の設定 R4:9.2%⇒R5:18.5% \*全国27.6%)

### 2. 要因分析

- ①②「CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定・公表・把握」及び「言語活動を意識した授業づくり」に関する研修を実施し、教員間で互いの取組等の情報交換を行ったことで、より具体的に触れることができ改善につながったと考えられる。
- ①②仙台市独自採用ALTによる全小学校への小学校訪問や小学校外国語教育推進拠点校5校による公開授業の参観・協議（悉皆研修）を通して、CAN-DOリスト、ALTの効果的な活用や英語による言語活動の理解が深まり、改善につながったと考えられる。

- ① 1人1台端末を活用した授業は進められている(R5:97.5%)が、学習者用デジタル教科書の活用方法や有効性が十分に理解されていないことが要因と考えられる。
- ②年1回の小中連携推進協議会を実施し、情報交換等の機会は設定しているが、学校間における交流授業の実施やカリキュラム等の設定という点での連携にまで至っていないのが現状であると考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①「**小学校外国語活動・外国語科研修**」  
・CAN-DOリストを活用した指導と評価の一体化や教科書を生かした言語活動の在り方等について講義・演習を通して学ぶ。
- ①②①「**小学校外国語教育推進拠点校 公開授業研修**」  
・小学校外国語教育推進拠点校5校による公開授業の参観や協議を通して、デジタル教科書を含めたICTやALT、CAN-DOリストの効果的な活用及び英語による言語活動を通じた授業づくりについて理解を深める。
- ②②「**小学校・中学校外国語小中連携推進協議会**」  
・小中連携の在り方についての講義を通して理解を深めるとともに、中学校区毎のグループ討議において、各校種におけるCAN-DOリストの活用や授業における言語活動の工夫等取組や小中連携のカリキュラム等の設定について理解を深める。
- ②①「**仙台市独自採用ALTによる小学校訪問**」  
・全小学校対象に、ALTとのチーム・ティーチングで行われる授業を独自採用ALTやALTアドバイザーが参観し、授業者(JTEとALT)との情報交換や助言等を行うことを通して、ALTやデジタル教科書を効果的に活用した言語活動の更なる充実を図る。

◎一定の英語力を有する小学校教師を確保するため、英語力に関する専門性を有する教員を教員採用選考における加点措置をすることにより積極的に採用する。

# 令和6年度 仙台市 英語教育改善プラン

授業における、英語による言語活動の充実を進め、

それらの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

## 目標

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 45.7% ⇒ R6: 60.0%)

○生徒の授業による言語活動の割合 (R5: 69.7% ⇒ R6: 85%) ○英語担当教員の授業における英語使用状況 (R5: 56.9% ⇒ R6: 85%)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CAN-DOLIST形式による学習到達目標の整備状況が改善。

(設定 R4:98.5%⇒R5:100%)

(公表 R4:87.7%⇒R5:92.3%)

(把握 R4:86.2%⇒R5:90.8%)

②生徒の英語による言語活動の割合が増加

(R4:63.1%⇒R5:69.7%)

③CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加。

(R4:41.2%⇒R5:45.7%)

R5 全国学力調査(本市50%)では、全国平均に対し4.4%上回った。

未だ改善が必要な点

①英語担当教員の授業における英語使用状況は引き続き改善の余地がある。

(R4:63.1%⇒R5:56.9%)

②小中連携の状況は、指導方法の交流やカリキュラム等の設定において改善の余地がある。

(交流 R4:35.4%⇒R5:40.0%

\*全国52.5%)

(小中連携したカリキュラム等の設定 R4:9.2%⇒R5:18.5%

\*全国27.6%)

### 2. 要因分析

①②研修における講義や演習、教員間の情報交換等を通して、CAN-DOLISTの活用や英語による言語活動を通した授業づくりに関する教員の理解が深まったことで、改善・増加したことが考えられる。

③本市が独自に実施している標準学力検査及び全国学力・学習状況調査の結果分析をもとにした効果的な指導方法や授業づくりのポイントを各学校に提示したことにより改善につながったと考えられる。

①本市の言語活動の割合は増加しているものの未だ改善の余地がある。生徒の英語による言語活動の割合には、英語担当教員の授業における英語使用状況も影響していると考えられ、生徒の実態に応じた理解しやすい英語を使うなどの指導方法や支援の工夫に課題があると考えられる。

②年1回の小中連携推進協議会を実施し、情報交換等の機会は設定しているが、学校間における交流授業の実施やカリキュラム等の設定という点での連携にまで至っていないのが現状であると考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

#### ③①「英語教育に関する研究事業」

・英検IBAの実施(市内中学校より対象校を抽出)を通して、更なる実態把握と調査結果をもとに英語教育の改善・充実につなげる。

#### ②①「中学校外国語科研修」

・英語コミュニケーション能力の向上を目指した授業づくりについて、講義・演習を通して学ぶ。

#### ②①②「英語運用向上研修」

※英語による研修

小・中学校のテキストを活用した言語活動を意識した授業体験を通して、小中の円滑な接続を目指すと共に実践的指導力及び英語運用能力の向上を図る。

#### ②①②「宮城県外国語指導助手の指導力等向上研修」

・ALTとJTEの効果的なチーム・ティーチングや小中連携の視点を踏まえた英語による言語活動を通した授業づくりについて、講義・演習を通して学ぶ。

※英語による研修

#### ③①「確かな学力研修委員会 授業力レベルアップ研修」

・仙台市標準学力検査の結果分析により明らかになった課題について、改善のための授業や指導事例について実践発表を行い、指導力の向上を図る。

#### ①令和6年度「教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修」における教員の参加

・オンライン研修への参加を通して、教師の英語力・指導力向上を図り、生徒の英語力の向上に資する。

#### ①②②「小学校・中学校外国語小中連携推進協議会」

・小中連携の在り方についての講義を通して理解を深めるとともに、中学校区毎のグループ討議において、各校種におけるCAN-DOLISTの活用や授業における言語活動の工夫等取組や小中連携のカリキュラム等の設定について理解を深める。

# 令和6年度 仙台市 英語教育改善プラン

## 目標

情報や考えを的確に理解し、それらを活用して適切に表現し伝え合う生徒を、  
言語活動を通して育成するための教員の指導力向上

○生徒の卒業時の英語力 (A2レベル相当以上 R5:27.3%⇒R6:50%以上 B1レベル相当以上 R5:11%⇒R6:20%以上)

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

- ①パフォーマンステストの実施状況が改善傾向にある。  
(R3:23.5%⇒R4:59.1%⇒R5:55.0%)
- ②ICTを用いての発表や話すやり取りの活動は全校で定着。  
(R3~R5:100%)  
キーボード入力等で書く活動を実施した学校の割合が増加。  
(R3=R4:75.0%⇒R5:100%)  
ICTの活用状況の改善が進んでいる。

#### 未だ改善が必要な点

- ①教師の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合が普通科、専門学科ともに前年度比で大きく落ち込む。  
(普通科R4:50%⇒R5:16.7%,  
専門学科R4:16.7%⇒R5:0%)
- ②授業に占める生徒の言語活動の時間の割合が安定せず、改善の余地がある。  
(R3:27.3%⇒R4:56.3%⇒  
R5:40.0%)

### 2. 要因分析

- ①宮城県と共催の悉皆研修において、パフォーマンステストや、バックワードで単元計画を立てることをテーマにしたワークショップを行ったことで、目標の達成状況を見取るためのパフォーマンステストの実施が、各学校に定着してきている。
- ②公開授業や各種研修でICTを効果的に用いた実践事例が紹介され、普及が進んでいると考えられる。

- ①学習指導要領で「授業は英語で行うことを基本とする」とされてから年数が経過し、普通科・専門学科ともに英語使用の意識が低下していることが要因と考えられる。
- ②普通科においては割合が増加しており改善がみられるが、専門学科においては数値が低迷している。幅広い学力層を想定した言語活動の具体を示す機会が不足していると考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

#### ①②Teacher's Empowerment Project

宮城県教育委員会と共催で、コミュニケーションな授業展開のための指導技術取得を目指し、ワークショップ形式でより効果的な指導・評価方法を学ぶ悉皆の研修会を実施する。現状を踏まえ、教師の英語使用を増やし、言語活動を通して指導することを徹底するための研修内容を吟味し充実を図る。

#### ①②小・中・高合同研修会

自主公開校を指定し、授業改善の中で言語活動の充実を意識した取組として工夫し、その成果を公開する。また、小・中学校の研修会において、高校の授業実践事例紹介や、研究協議を通し、連携に必要な学びの接続の在り方を考える。

#### ①②世界に発信する高校生の育成

中等教育学校においてICT機器を活用した、生徒が実際に英語を使用する体験を通して、適切に自分の考えなどを表現したり伝えあったりする力を育成する。オンライン等による海外生徒との交流活動を充実させ、その取組を市内に波及させるとともに、効果的な指導方法及び評価方法について研究を推進し、教員の指導力の向上を図る。

仙台市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	27.3	50		55		60		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30	11	20		25		30		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	85	40.0	55		60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	55.0	60		65		65		70		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	75	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	75	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	14	60		70		80		85		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	10	50		55		60		65			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	45.7	60		60		60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	85	69.7	85		85		90		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	88.2	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	92.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	90.8	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	37	50		50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	56.9	85		85		90		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	80	85.6	90		100		100		100
		公表(%)	70	69.5	80		90		100		100
		達成状況の把握(%)	70	76.3	80		90		100		100